



令和6年1月号掲載

男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

地震大国の日本、100年前に関東大震災を経験し、更には台風や水害・土砂災害の被害が繰り返されてきました。国民の防災意識の向上のため2016年から「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）」が開催されており、男女共同参画の視点からの防災に関するワークショップ（参加体験型講座）もたくさん開催されています。

100年目の節目にあたる今年は、様々な団体・機関がセッションやプレゼンテーション、屋外展示等を実施しました。

Q103 「防災に関する女性参画の必要性は何ですか？」

A103 女性のニーズを、物資やプライバシー・防犯の欠如、育児・介護に不十分な環境など目の前の困りごとへの対応（实际的ニーズ）と、そうしたニーズを繰り返し生じさせてしまう意思決定の場への女性の参画不足などの構造的な要因への対応（戦略的ニーズ）とに分けて捉えるようにしたうえで、両方とも取り組んでいくことが重要であり、女性と男性の異なる支援ニーズに沿った災害対応が必要である。

★トークタイムでの気づき★

参加者が6つのグループに分かれて意見交換を行い、それぞれのグループでの主な議論とグラフィックレコーディング（通称グラレコ※）をまとめたものの中から、その一部を紹介します。

※会話や対話、セミナーなどを図・絵・文字を使ってリアルタイムに可視化する技術。



D グループ「構造的な体制と意識を変える」

災害時に女性が抱える困難は、平時でも課題ではないかという視点から、課題解決のために必要なことは何か。一つはアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）を自覚するなど意識の変革。もう一つは、防災・危機管理担当部局への女性の配置や地方防災会議に女性委員を増やすといった構造的な組織体制を変えること。こうした行動変容を起こすためには、女性も男性も声を上げていくことが大事であり、それが災害時の課題解決につながる、という意見にまとまりました。



作：グラフィックレコーダー きのぴーさん
https://www.instagram.com/knp_iillust/

災害はいつどこで起こるかわかりません。子育て・介護・仕事や地域、障害とともに生きる女性や、外国にルーツのある女性もいることを認識して、女性の視点からの防災意識を高めながら、今後の防災活動に対して、男性も女性も参画し、平常時から取り組んでいくことが重要なカギかも知れません。